



Suzuka University  
of Medical Science

鈴鹿医療科学大学  
〒510-0293 鈴鹿市岸岡町1001番地 1  
TEL. 059-383-8991  
<https://www.suzuka-u.ac.jp/>

No.  
128

2024.10.18

# SUMS News



白子キャンパスにて  
開催します！！

## 「第34回 碧鈴祭」を開催します！

大学祭実行委員会

あなたは今を楽しんでいますか？

今年のテーマは『See Your Smile ～今しかない瞬間(とき)を～』です。人は嬉しいこと、悲しいこと、楽しいこと、辛いことなど、さまざまな感情を抱きながら生活しています。過ぎ去っていく日常の中で、取り戻すことのできない今この瞬間を楽しく笑顔で過ごしたほうが、年齢を重ねた時に良い思い出になると思います。もし、あなたが落ち込んでいて笑顔になれない時は、笑顔を見せてくれる友人や恋人、家族と一緒に過ごしてみてください。笑顔を見ていれば、自然と笑顔になれる時がくるはずです。そして、あなたの大切な人と素晴らしい思い出を「碧鈴祭」で作ってください。

大学祭実行委員会は、あなたとあなたの大切な人がいつまでも笑顔でいられるように応援しています。

現在は碧鈴祭の開催に向け、先輩方が築き上げてきた伝統を守りつつ、ゲストの方に、より一層楽しんでもらえるように日々準備に励んでいます。

当日は、本学学生・教職員の他、高校生や地域の皆さまをはじめとした学外の方にも本学の教育・研究の内容を知っていただけるような多彩なプログラムをご用意していますので、ご家族・ご友人等お誘い合わせのうえ是非ご来場ください。

### ◇ 碧鈴祭

<開催日時> 令和6年11月9日(土) 10:00~17:00 / 11月10日(日) 10:00~16:00

<開催場所> 白子キャンパス

<イベント内容>

- ・9日(土) 【講堂】お笑いLIVE (出演:U字工事・エイトブリッジ/入場無料)、キャラクターショー
- ・10日(日) 【講堂】音楽LIVE (出演:カネヨリマサル/入場無料)
- ・両日 学科発表/クラブサークル発表

※詳細は本学のホームページをご覧ください。

※開催方法及び、実施内容・スケジュール等が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

※キャンパス内及び会場周辺での徹夜等、周辺施設や住民の方の迷惑となる行為は固くお断りします。

<学生課>



## CTY・CNS放送(ケーブルテレビ)番組の撮影が行われました

8月22日(木)白子キャンパスにてCTY・CNS放送(ケーブルテレビ)の番組「北勢情報トライフル!」の収録が行われました。

「北勢情報トライフル!」は地域の情報番組で、イベント、映画、お店情報などで構成されています。番組内コーナーの「かんたん薬膳であなたも健康に!」は、高木久代副学長が学内ヘルシーキッチンスタジオで撮影収録を行い、旬の食材や調理のコツなどを丁寧に説明しています。コーナー最後では本学の情報を発信しています。

9月放送は特別企画として、通常の薬膳コーナーに加え、特別コーナーと番組進行の撮影が学内で行われ、本学の学生にもインタビューに協力いただきました。収録場所の白子キャンパス6号館など、いろいろな角度から本学をご紹介いただきました。



放送局	CTY・CNS放送(ケーブルテレビ)
番組名	「北勢情報トライフル!」(30分番組)
コーナー名	「かんたん薬膳であなたも健康に!」(5分) 9月放送分:「特別編」(6分程)・「学生インタビュー」(3分程)
放送日・時間	毎月1日～15日放送 10時～・16時～他(1日に2～3回放送)
放送チャンネル	地上デジタル121ch
放送エリア	鈴鹿市、四日市市、いなべ市、三重郡菰野町、桑名市長島町、桑名郡木曾岬町(約22万世帯)



また、エリア外の方もスマートフォンアプリ「CTYコネクト」「CNSコネクト」から番組をご覧いただけます。配信期間は、放送開始日から3か月間です。詳しくはQRコードからご参照ください。 <企画広報課>

## 薬学科主催「夏休みこども薬剤師体験」の実施報告

薬学部 薬学科 教授 定金 豊

夏休み期間中の8月8日(木)白子キャンパス1号館4階の調剤室において、小学校4～6年生を対象に薬学科の主催で「夏休みこども薬剤師体験」を実施しました。本学の施設を利用した小学生への薬剤師体験は初めての試みで、参加者を抽選で決めなければならないほど多くの方から応募がありました。

参加者はグループに分かれて、調剤室で処方箋に従って散剤と水剤を各自で調剤し、自動分包機で調剤した薬を小分けする作業も体験しました。薬を入れる薬袋も各自で作成し、実際に薬を提供するまでを体験しました。数多くの工程がありましたが、薬学科5年生8名がサポーターとして活躍してくれたので、スムーズに実習を進めることができました。実習終了時には白衣を着たこども薬剤師が投薬カウンターで薬を提供する姿を、保護者の皆さまが撮影されていました。



三重県では人口10万人あたりの薬剤師の数が全国平均よりかなり低い状況です。このような体験を通じて薬剤師の仕事に興味をもってもらい、将来の職業選択への一助となることを期待して体験会を実施しました。参加した生徒さんからは、「花屋にもなりたいけど、薬剤師もいいかな」という声も聞こえており、薬剤師に興味を持ってもらえたと思っております。この体験会の様子はテレビニュースや新聞記事として数多く紹介され、薬学科の広報にも一役買うことができました。

## 「救急・健康フェア2024」が開催されました

9月8日(日)白子キャンパスにて「救急・健康フェア2024」が開催され、約200名の方が来場されました。

このイベントは、鈴鹿市・鈴鹿市消防本部が主催し、市民の皆さまに救急と健康に関する理解と認識を深めていただくことを目的に開催され、学官連携の一環による本学での開催は6回目となりました。

会場では、オープニングイベント「三重ホンダヒートとタオルストレッチをしよう」や「美味しく食べて骨づくり(本学医療栄養学科 印南京子准教授)」、「骨と救急医療 ～早期対応と安全な生活のために～(鈴鹿市消防本部)」、「あなたの骨は大丈夫?今から始めよう骨のケア(村瀬病院 副院長 近藤哲士先生)」の講演会をはじめ、各ブースとも賑わいを見せていました。

本学からも、3つのブースを設けて参加し、市民の皆さまに健康維持の役立つ情報をお伝えしました。

<本学参加ブース>

- ・医療栄養学科『あなたの体と生活を見直そう』
- ・臨床検査学科『血管超音波検査』
- ・一般社団法人日本薬膳学会(鍼灸サイエンス学科)『体質にあった薬膳茶で健康になろう!』 <学生課>



## 管理栄養学専攻の学生とマックスバリュ東海がお弁当を共同開発

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 吉村 智春



医療栄養学科 管理栄養学専攻4年生奥野こはるさん、亀田佳凜さん、里中玲那さんとマックスバリュ東海株式会社が共同開発したお弁当「鈴華御膳 むっちゃうまいにー! 鶏つくね弁当」が、9月14日(土)より1か月間、マックスバリュ店舗にて販売されました。9月15日(日)は学生3名が鈴鹿住吉店の店頭立ち、お客様に「三重県産のひじきが入った鶏つくねなど、家で作るには手間のかかる料理を多く取り入れました」「一人暮らしの方にも、懐かしさを感じ落ち着くような味付けのお弁当に仕上げました」など、お弁当へのこだわりを説明しながら、試食販売を行いました。

また、同級生や卒業生も店頭応援にかけつけ、約2時間でお弁当50食を販売しました。

春から試行錯誤して完成させたお弁当ですが、お客様の反応に達成感を得ている学生たちの姿がとても印象的でした。

また、本年度は本学のMaxマート(千代崎キャンパス)にて行った9回の販売では、教職員や学生にも食いただき毎回ほぼ完売となり好評でした。

## 医療健康データサイエンス学科4年生が国際会議で研究発表

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 4年 上西 孝明

8月28日(水)~30日(金)広島大学で開催された「The 6<sup>th</sup> International Conference on Healthcare, SDGs and Social Business and SocialTech Summit 2024」において、研究を英語で口頭発表しました。この国際会議は、様々な分野の専門家、学者、実務家、政策立案者が一堂に会し、ソーシャルテクノロジー、ヘルスケア、SDGs、ソーシャルビジネスの最新の進歩、課題、機会について議論することを目的とした国際会議です。

発表した研究テーマは、「Can We Use Graph Neural Networks(GNNs) in Personal Health Records(PHRs) - Literature Survey(パーソナルヘルスレコード(PHR)へのグラフニューラルネットワーク(GNN)の応用について-文献調査)」でした。昨今、医療へのAI活用や健康保険証をマイナンバーカードへ一本化し、個人で医療健康情報を管理・活用するパーソナルヘルスレコード(PHR)の活用基盤の構築等の取り組みにみられるように、医療DXへの関心が高まっています。このPHRは様々な形式のデータが個人に紐づきデータ同士も相互に結び付くことが予想されます。そのことから、データを点(ノード)、データ間の関係を線(エッジ)で表現するグラフ理論というグラフに対して、AIの分野で発展が期待されているニューラルネットワークという機械学習手法を適用するグラフニューラルネットワーク(GNN)を応用することに着目しました。PHRはまだ普及途上ということで研究は少ないため、医療機関同士の共有・活用を目的としたエレクトロニックヘルスレコード(EHR)におけるGNNの研究の文献を調査、整理、比較検討し、PHRにも活用し得ると結論付けた調査論文を発表しました。

3日間を通して様々な国の様々な医療課題を各国の研究者が現実問題として取り組んでいる生の研究発表を聞き、とても刺激を受け視野が広がった大変有意義な会議でした。 URL: <https://conf.socialtech.global>



## 慢性疼痛で学ぶチーム医療 体験型合同ワークショップを開催

慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)担当責任者・臨床検査学科 教授 山口 太美雄

慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)ワークショップが8月19日(月)～21日(水)に白子キャンパスにて開催され、本学学生44名と三重大学生10名の計54名が参加しました。

第1日目は、三重大学の平山雅浩医学部長が開講挨拶され、事例紹介と痛みの評価の講義の後、体験ブースに分かれ、鍼灸治療、アロマセラピー、筋口コモ、神経ブロック、筋弛緩法の紹介が行われました。この日から2日目の午前にかけて、多職種連携を模した各チームにより、問題解決のための討論が開始されました。

第2日目は、福祉の現状と慢性疼痛緩和の助けとなる薬膳の講義が行われ、さらに痛みの強さを数値化するペインビジョンを体験、次に理学療法の実践を行った後、過去に参加の先輩達からなる「学生サポーターの会」と交流しました。

第3日目は、患者さまの病状と心理状態を把握し、治療方針を検討するため、教員チームが患者と家族に扮したロールプレイングを行い、真摯なやりとりを経て学生チームから次々と提案が出されました。各グループでは専任教員がサブファシリテーターを務めると共に、医療職の専門職アドバイザーとして職務内容を紹介しました。今回は学生達の満足感が高く、臨床現場における使命感が再認識されたとの感想が寄せられ、閉講挨拶では本学の豊田長康学長より、ワークショップの果たす役割と学生への新たな期待が表明されました。

来年度は内容をさらに充実させますので、熱意を持つ後輩の皆さんの参加をお待ちしています。



## 腎臓病の患者サポート活動の報告

保健衛生学部 臨床検査学科 教授 山口 太美雄

現在わが国においては、様々な原疾患により慢性腎臓病(CKD)となる患者数が年々増加しており、その数は1300万人余り、人工透析患者数は34万人を超えています。CKDは長期に及ぶサポートが不可欠であり、医療従事者との交流は患者さまやご家族の心身の支えとして重要です。

私は、5月末から7月初旬にかけて、京都大学iPS細胞研究所訪問、パシフィコ横浜にて開催された日本腎臓学会学術総会出席、順天堂大学にて行われた多発性嚢胞腎協会患者集会参加を通して基礎研究、臨床治療、医療チームによる患者サポートの各段階を総合的に調査し、根本的治療法の研究から、治療現場の実情、患者会活動の実態まで、様々な状況を実感し、医療チームによる患者と社会への貢献の大切さを認識しました。

特に7月6日(土)順天堂大学で開催された多発性嚢胞腎協会主催の患者集会では、医師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、基礎研究者、製薬会社社員、ベンチャー企業社員などが集まり「よりよい共に生きる」というテーマの下で様々な観点から患者さまとご家族をサポートするとともに、腎臓病の根本的治療を目指されている京都大学iPS細胞研究所副所長の長船健二先生の講演を拝聴し、近い将来の治療法開発に希望を抱きました。

一連の活動を通じて感じたことは、本学が目指すチーム医療の大切さと、医療従事者を育成する本学の使命は極めて重大であるということで、改めて身の引き締まる思いがしました。



## 日本薬学会東海支部の特別講演会が開催されました

薬学部 薬学科長(日本薬学会東海支部 連絡委員) 西田 圭吾

7月4日(木) Jiří Kozelka教授(チェコ Masaryk University、フランス Paris Cité University)を白子キャンパスに招き、「演題：Mechanism of Formate Oxidation by NAD-dependent Formate Dehydrogenase: Computational Studies on Near-Attack Conformations (NAD依存性ギ酸脱水素酵素によるギ酸酸化のメカニズム：Near-Attack Conformations に関する理論計算研究)」について講演を行っていただきました。

また、講演の前には薬学科の植村雅子助教や薬学研究科の山田拓磨院生と、それぞれ抗がん白金錯体に関する研究について情報交換を行いました。

Kozelka先生は薬学科の米田誠治教授がパリ第五大学に留学されていた時の指導教員で、京都で開催された国際学会に参加するために来日されたことで、今回の特別講演会が実現しました。

今後も海外の著名な研究者を本学に招き、教員と学生の国際交流の機会を積極的に設けたいと思います。



## 「臨床工学技士 いのちのエンジニア体験 in みえ」に参加

医用工学部 臨床工学科 准教授 秋田 展幸

9月22日(日)三重県総合博物館 MieMu 交流展示室にて、三重県臨床工学技士会主催「臨床工学技士 いのちのエンジニア体験 in みえ」が開催され、本学科4年生2名と教員の西川祐策助教、秋田がスタッフとして参加しました。小学生とその保護者の方々を中心に約600名もの参加があり、当日はテレビ局からの取材およびその放映がされました。



このイベントは、いのちのエンジニア「臨床工学技士」という職業を県民の皆さまにもっと知ってもらい、将来の人材発掘・医療の質の向上・社会貢献を目指した医療の体験型イベントです。医療施設において臨床工学技士が主に従事している集中治療室・手術室・透析室を模擬した3ブースを設置し、人工呼吸器・消化器内視鏡・穿刺体験の他、医療機器の展示が行われました。また養成校・臨床工学技士紹介ブースとして、本学臨床工学科のパンフレット他資料を設置し、参加いただいた方に案内をさせていただきました。体験された方からは「楽しかった」という意見が非常に多く、また「臨床工学技士という職種を初めて知った」との意見も多くあり、今後さらに臨床工学技士・本学臨床工学科をもっと多くの方々に知っていただけるようPRしていきたいと思っております。

## 放射線技術科学科 シミュレータ教育に関する論文掲載と学術集会での講演

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 松浦 佳苗

放射線技術科学科では、現在、シミュレータを取り入れた教育を行っています。シミュレータでは放射線の各装置で撮影された臨床画像の閲覧や画像処理を行うことができ、幅広い臨床技術を学習することができます。このシミュレータを講義や学内実習に取り入れ、座学で学んだ知識をしっかりと定着させ、臨床現場に出た際に即戦力となれるようシミュレータ操作を行い訓練しています。

今回、本学科の中舎幸司准教授らは、核医学検査の学内実習でシミュレータを用いた教育効果について学生アンケートを基に研究を行いました。シミュレータはノートPC内で操作できるため学生一人一人操作が可能であり、さらに一人一人が分からないところも手厚く指導もできることもあり、学生にとってシミュレータ教育は理解度や満足度向上につながる結果となりました。本研究結果は論文化され、下記論文に掲載されました。

掲載論文：Koji Nakaya, Hiroe Muto, Kanae Matsuura, and Nobuyuki Arai: Simulator

Education Initiatives for On-Campus Practical Training in Nuclear Medicine Technology. *J Nucl Med Technol.* 2024 Jun 5;52(2): 168-172. doi: 10.2967/jnmt.123.267135.

また、中舎准教授が、シミュレータ教育の紹介について8月24日(土)東京都立大学で開催された「第18回日本診療放射線学教育学会学術集会」のランチョンセミナーにおいて講演されました。

今後も教育の質が向上するように日々研鑽を重ね、新たな教育改革へ向けて放射線技術科学科一同精進していきたいと思っております。



18回日本診療放射線学教育学会学術集会の講演の様子

## 大学院 学位授与式(8月修了)について

8月28日(水)大学院8月修了者の学位授与式を挙行し、修士1名、博士1名に学位授与を行いました。

2名とも病院に勤務している社会人院生であり、在籍中はコロナ禍とも重なって職場の業務も大変な中、修了されました。

本学大学院の在籍者は大半が社会人です。勤務しながら修学できるよう、講義、研究指導に配慮しています。大学院に興味がある方は、右記をご参照ください。



大学院  
について



大学院入試  
について

<大学院課>



## ブルードルフィンズセミナーへの放射線技術科学科学生の参加

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 永澤 直樹

7月27日(土)千代崎キャンパスで日本放射線技術学会中部支部主催のブルードルフィンズセミナーが開催されました。本学科の卒業生を含む多くの診療放射線技師が参加しましたが、その中で本学の放射線技術科学科3・4年生7名が志望参加しました。

ブルードルフィンズセミナーは診療放射線技師のビギナー向けのハンズオンセミナーで、今回はCT画像とX線画像の画質評価について2会場に分かれて、各参加者が持参したPCを用いてチューターの指導により様々な処理を体験しました。この画質評価は診療放射線技師の日常業務の一つでもあります。国家試験の出題範囲でもあり、参加した学生は将来の先輩たちに囲まれながら、実践的に多くの評価手法を学びました。

ハンズオンセミナーの最後にはイブニングセミナーが開かれ、「“研究”することで広がる世界観 ～家庭・仕事・研究のワークライフバランスと成長マインドセット～」というテーマで、現場でそして社会人大学院生としても活躍されている新進気鋭の診療放射線技師の先生方が講演を行いました。学生も熱心に聞き入り、そして質疑では「社会人大学院生として業務と学業の両立はどのようにしているのか？」等、積極的に質問していました。

将来の先輩たちに囲まれて学んだこの一日は、学生にとって将来へのモチベーションが向上するよい機会だったと思われます。



## 診療放射線技師法改正に伴う告示研修について対象学生128名全員が無事に修了

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 荒井 信行

診療放射線技師法の改正に伴い、国家資格を有する診療放射線技師は、厚生労働省告示第273号研修(以下、告示研修)の修了が義務付けられています。この告示研修は、令和3年度までに養成課程の履修を開始した者に対しても「国家試験を受験するにあたり本研修を修了していること」とされており、本学科では128名の在籍学生が対象となっています。4月中旬より基礎研修として700分(5項目43講義)のeラーニング受講を開始し、基礎研修の修了を以て、8月6～8日の3日間のいずれかの日程で実技研修(385分)を行い、対象学生全員が無事に計1,085分の告示研修を修了しました。

タスク・シフト/シェアに含まれる業務拡大の告示研修として、静脈路を確保する行為、RI検査医薬品の注入装置を操作する行為、動脈路に造影剤注入装置を接続し操作する行為、下部消化管検査のために注入した造影剤および空気を吸引する行為、上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入し抜去する行為について、規定の基礎研修と実技研修が行われました。特に実技研修では、いずれ臨床現場で行う業務を想定して真剣な姿勢で研修に臨んでいました。実技研修当日は、規定に則り三重県診療放射線技師会や業務拡大をすでに行っている臨床現場の技師の先生方に講師として立ち会っていただき、また放射線技術科学科全教員が実技研修ファシリテータとして配置され、終始円滑に研修を進めることができました。同研修内容は、今後学内実習の一つとして3年生秋期の実習に含まれることになっています。



## 看護学科 第4回市民公開講座を開催

7月27日(土)白子キャンパスにて、第4回看護学部市民公開講座を開催しました。「一緒に考えよう！子育て世代を守るための災害への備え」と題し、看護学部小児看護学 倉田節子学部長、母性看護学 國分真佐代教授による講義と、母性・小児看護学教員によるグループワーク、防災グッズの展示を行いました。

講義では、災害時の妊産婦や乳幼児のこころとからだの特徴、子どものこころとからだの特徴をふまえた対応について学ぶ時間をつくりました。グループワークでは、参加者の皆さまに、レジ袋とタオルを使った子どものおむつの作成と、紙コップでの授乳を体験していただきました。グループワークは和やかに実施され、参加者の皆さま同士で活発に意見交換を行う場ともなりました。防災グッズの展示コーナーでは、液体ミルクや弾性ストッキングなど、子育て世代特有の防災グッズの紹介を行いました。

約20名の皆さまがご参加くださり、講座後のアンケートでは「育児をされている方の意見が聞けて、自分が想像できなかったことを考えることができた」、「実演することで実際に必要となった時のイメージをすることができた」など、たくさんのご意見をいただきました。

私たち母性・小児看護学教員も、皆さまから「グループワークで交流ができて良かったです」と声をかけていただき、一緒に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

<看護学部>



## 韓国 大田保健大学にて国際交流

保健衛生学部 医療栄養学科 教授 村林 新吾

8月9日(金)～13日(火)ゼミの一環として国際交流をかねて隣国の大韓民国を訪問しました。「韓国を見て聞いて学ぼう」を目標に、9日7時30分セントレア国際線ロビーに学生と集合し出発しました。仁川国際空港に到着後、高速バスで大田市へ向かい、バスターミナルに国際交流協定校である大田保健大学の先生に迎えに来ていただきました。大学へ到着後、総長と学長が出迎えて熱く歓迎していただきました。

学生は緊張して学んできた韓国語も使えないまま懇談がはじまり、その後、学内見学をしました。食事にも副学長が同行され韓定食をいただきました。大学寮の空き部屋の個室を私たちに手配していただき、韓国の大学生と同じように生活、宿泊を体験しました。2日目は研修が始まり様々な施設を見学しました。大田保健大学は4年制の栄養学科と2・3年制の調理学科がありますが、そのカリキュラムの違いを解説いただきました。卒業生も来ていただき、徴兵制のシステムや徴兵後大学に復学する割合、入隊する年齢と期間、軍の食事はどのようなものかなど、日本にない制度を説明してくれました。昼食にはサムゲタンを作りました。最終日には総長より、「また必ず韓国へ来てください」との言葉もいただきました。大学の皆さまと別れソウルへ列車で移動して、学生はソウルタワーへ、次の日も街並みを散策し韓国の若者たちの熱気を感じました。最終日の朝、学生は切符の買い方も勉強しながら仁川国際空港へ電車移動し、10時45分セントレアへ到着しました。



短い時間でしたが無事、事故もなく良い交流ができました。大田保健大学の皆さまと様々な情報を交換しましたので、今後も両校間で活発に交流したいと思います。

## 鈴亀地区 主任児童委員研修について

保健衛生学部 医療福祉学科 助教 奥山 滋樹

8月21日(水)鈴鹿市と亀山市の主任児童委員の方々を対象に、「不登校の児童生徒や引きこもりの方に対する理解と関わり方」というテーマの研修会の講師を務めました。令和4年度統計データでは不登校児童生徒の数は29万人にも上り、年々増加傾向にあります。社会的引きこもりにおいても同様の傾向にあり、全国で150万人近くいると推定されています。不登校や引きこもりの方に対する社会的な関心は依然として高く、三重県においても同様のようです。当日は私がこれまでの臨床業務のなかで関わった事例を素材として、不登校や引きこもりの状態にある当事者と家族に対する理解と関わり方についてお話をさせていただきました。一般的に「不登校」や「引きこもり」といった状態にある方に対し、私たちは再登校や就労といった大きな目標を念頭に置いてしまうように思われます。ですが、そのような大きな目標の設定は、本人や家族にとって実現可能性が乏しいものとして受け取られたり、その達成の困難さ故に支援者の士気を削ぐことに繋がったりするなどし、結果的に上手くいかないという事態を招くことがあります。そのような事態に陥らないために、まずは「不登校でもひきこもりでもない自分」を意識できるような時間が生活のなかに築いていくのが大切になるのではないかとのお話をさせていただきました。終了後は多くの質問を頂戴し、地域で活動されている方々の熱心さに頭が下がる思いでした。



## 高校にて出張授業を実施

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助手 光野 諒亮

6月10日(月)高田高等学校、7月25日(木)宇治山田商業高等学校、7月27日(土)日本福祉大学付属高等学校にて鍼灸サイエンス学科の出張授業を実施しました。

出張授業とは鍼灸サイエンス学科の教員が高校に訪問し、大学で学べる医療・はりきゅう・トレーナー・美容・食養生について紹介し、生活や将来の進路に役立ててもらおう活動です。

今回の出張授業では高校の先生方が興味のある生徒を募り、前半に同学科の松岡慶弥助手が「パフォーマンス向上・疲労を残さないためのストレッチ」「競技力向上のための体幹トレーニング」を行い、生徒の皆さんにも一緒に体験し効果を実感してもらいました。後半では光野が「集中力向上・緊張ほぐしのツボケア」「美容のツボケア」を行い、普段使いできるツボ押しや実際に何名かの生徒さんに美容鍼灸を受けてもらいました。



終了後に行ったアンケートによると大勢の生徒さんに「楽しかった」「わかりやすかった」と感想をいただき、特に印象に残った点はどこかという質問では「ストレッチの仕方によって効果が変わること驚いた」「実際に鍼を刺すところを初めて見た」とありました。今後の活動に活かそうと興味津々に取り組む姿勢を見て、私たちも嬉しく感じました。今後もこのような活動を継続していきたいです。

## トライアスロン大会のボランティアに参加

保健衛生学部 救急救命学科 准教授 大和田 均

7月7日(日)三重県志摩市浜島町にて「伊勢志摩・里海トライアスロン大会2024」が開催されました。この大会に地域貢献の一環として、人々の命を救う役割を果たす救急救命士を目指す本学科3年生11名および教員3名が救護ボランティアとして参加しました。

私たちの活動は熱中症傷病者の救護をはじめ、緊急事態の際にいち早く駆け付けられるよう、教員は本学の救急車を会場に配置、学生たちは自転車に乗り、AEDや応急処置を行うための資器材を持つての巡回活動、さらには選手たちがランニングコースに入ってきた際に水や塩分タブレットを配布する役割を担当しました。当日は最高気温が38℃におよぶ猛暑の中、約900名におよぶ競技者はスイム2km、バイク45km、ラン7kmを走破する過酷なレースであったため、競技中に熱中症からの体調不良、下肢の痙攣や転倒による負傷者が多く発生しました。学生たちは普段の実習での経験を活かし、迅速な対応を行いながら励ましの言葉やエールを送り、選手の皆さんも感謝の気持ちを示してくれたことに喜びを感じていたようです。

今回のボランティア活動は、選手たちの頑張りを応援するだけでなく、大会の裏側での運営に携わる貴重な経験を得ることができました。今後も地域貢献活動を通じて学生の成長を促進していきたいと考えています。



## 「初動救護員養成講座」がスタート！



9月10日(火)より、ホテル従業員を対象にした「初動救護員養成講座」がスタートしました。これは、昨年8月に発足した「リカレント教育プラットフォームみえ」の活動の一環として、本学が独自に実施するプログラムです。

三重県鳥羽市の旅館「戸田家」様から、宿泊客が万が一の健康トラブルに見舞われた際に、従業員が迅速に応急処置を行えるようにしたいという思いをお聞きし、双方で検討を重ね、誕生した講座となります。全4回の講座(各回2時間)を受講し、最終日の試験に合格すると、本学独自の「初動救護員認定証」と特製ピンバッジが授与されます。

と特製ピンバッジが授与されます。

講座初日には、フロントスタッフや客室係、ケータリング担当者など10名の従業員が参加し、初歩的な救護手当の技術を学びました。最終日となる10月22日以降には、ピンバッジを胸に付けた従業員が、万全の態勢でお客様をお迎えできるようになります。

### ■講座の目的

「お客様は自分たちが守る」。従業員が日々の業務中に、客室や食事会場、風呂場などで発生し得る事故に迅速に対応できるよう、応急手当のスキルを習得します。講座では、胸骨圧迫やAEDの使い方、さらには異物の除去やアナフィラキシーの理解と対応、熱中症ややけどの手当てについても身につけていきます。

### ■スケジュール

第1クール 9月10日、9月24日、10月8日、10月22日

第2クール 11月5日、11月19日、12月3日、12月16日



〈大学事務局〉

「リカレント教育プラットフォームみえ」とは？

「リカレント教育プラットフォームみえ」は、社会人の学び直しを推進する文部科学省の支援事業の一環として、県内14の高等教育機関で構成されています。本学は、三重大学が事務局を務めるこのプラットフォームを通じ、地域のニーズに応じたリカレント教育プログラムを提供していきます。



リカレント教育  
プラットフォームみえ

## 病院・施設における臨床実習について

保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻長 美和 千尋

作業療法学専攻の臨床実習は卒業までに1,000時間あります。この時間は世界作業療法士連盟の認定校として必修であり、本学は認定校の一つになっています。大学での臨床実習の内訳は、2年生：80時間（2週間×2見学実習）、3年生：200時間（5週間 評価実習）、4年生：720時間（9週間×2 総合実習）です。障害の分野は身体障害、精神障害、高齢期の障害、発達障害の4分野あります。どの実習も学生は1～2名で行くため、緊張することが多いと思います。

先日、セミナーを開催して、実習の振り返りを行いました。実習後のセミナーでは、それぞれの学生が担当した症例を報告し、学生や先生から質問を受けて答えていました。作業療法士になるための大学で受ける授業の総まとめになります。私が作業療法士になった頃は、病院には数名の作業療法士しかいませんでした。そのため、就職するとすぐに作業療法士として働くことが要求されました。現在は、病院独自の新人教育が整い始めたので、大学での臨床実習の形態も準じていってもいいかと思っています。臨床実習は大学という守られた環境以外で自己研鑽につながるため、学生は成長して戻ってきます。このような課題が学生を育てると思います。まだ、学生は卒業研究、国家試験に取り組んでいきます。今後も学生の成長を楽しみに見守っていきたいと思います。



## 4年次総合臨床実習を終えて

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 4年 田中 結



私は、伊勢ひかり病院に8週間、岡山大学病院に7週間実習へ行かせていただきました。臨床実習が始まって最初の時期は、患者さまの機能障害や活動制限の原因を考えると、最初に考えた事に固執して他の原因を考えることができませんでした。実習指導の先生からご指導をいただき、徐々に柔軟に考えることが出来るようになり他の可能性があることを学びました。まだまだ、1つの考えに固執してしまうことがあるので、今後も柔軟に様々な観点から考えるように努力していきたいと思っています。

また、実習では、大学では学ぶことの出来ない、実際の患者さまの思いや反応を感じることができとても貴重な経験をさせていただきました。症状の回復に対して、理学療法の効果は大きなものではないかもしれませんが、ヒトの本来の治癒能力をサポートし身体機能が回復した時にスムーズに動作獲得ができるよう、治療の優先順位をしっかりと考えることが患者さまの利益になると改めて感じました。

今回の実習で学んだこと・感じたことをこれからも忘れずに、1人でも多くの患者さまの役に立てる理学療法士を目指し、まずは国家試験合格のために勉学に励んでいきます。

## 医療ソーシャルワーク実習を終えて

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 3年 竹内 那月



24日間という長期間の学外実習が終了し、多くの学びがあったと実感しています。実習先は伊勢市の障害者の支援センター等で実習させていただきました。精神、身体、知的、発達の各障害者への生活全般の相談と就労支援の他に、個別の事例を取り上げての就労支援計画の立案などに取り組みました。

実習の流れは、初めに現場の専門職の方の就労につながる場面での相談業務、ハローワークへの同行支援、職場定着支援等の現場を見せていただき、次に、与えられたケースの個別支援計画の立案をし、専門職の方に指導を仰ぐというものでした。精神障害者手帳を有する方の就労継続に向けての計画立案に取り組みましたが、指導者の方から多くの部面でチェックが入りました。基本的に障害者の立場に立ち来ていないこと、健常者の目線からの計画立案であること、現状認識の甘さなど何度も指摘・訂正を求められ、その度に気付かされることがありました。さまざまな領域で発想の転換が求められ、基本的に健常者目線でできると考え立案することと実際に障害者ができることは、そのスピードも完成度も中身も全く違うということでした。

私たちは障害者の立場に立ち切ることはできません。しかし、ハンディキャップをもつ人々に寄り添うことで、その人の心の声を聴くことはできると感じました。この経験を今後活かしたいと強く感じた実習となりました。

## ワンダーフォーゲル新入部員と入道ヶ岳へ

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻 2年 高橋 杏奈

5月18日(土)五月晴れの下、臨床工学科1年の石丸君、坂野さんと顧問の藤原芳朗先生、応援の伊原正先生、それに山好きの私の母も飛び入りで参加し、計6名で入道ヶ岳の井戸谷コース～頂上～二本松コースを登ってきました。

椿大神社で安全登山を祈願し、登山届を提出後いざ出発。溪谷沿いの登山道や岩場を上り下りし、途中の避難小屋で休憩。水分補給と軽い行動食を摂り再び歩き始める。何度か沢の渡渉やクサリ場を通過した後、頂上までの急斜面となる。まっすぐな道が頂上へ向けて急勾配で伸びている。何度も足を止めながら振り返ると、絶景が広がっている。四日市の街並みや工場群とその先に伊勢湾がくっきりと見渡せる。最高の大パノラマ。登山の一番の醍醐味。感動しました。

907mの頂上からは、昨年登った御在所岳と先月登った鎌ヶ岳がまるで手の届きそうな距離に見ることができ、山の楽しさを再発見しました。お湯を沸かしてカップ麺を食べ大鳥居を背に記念写真を撮影後、二本松尾根を下る。登山経験が少ない1年生の健脚に安心するとともに、次の山行が楽しみになりました。下山後は伊原先生よりザイル、カラビナの扱い方や8の字結びなどのロープワークの指導を受け解散しました。



## ボランティアセンター活動報告

### 桜の森白子ホーム「おやつの配膳ボランティア」



7月4日(木)グループ施設である桜の森白子ホームで「おやつの配膳ボランティア」を行いました。この日の「おやつ」はかき氷で、学生たちは利用者の方に好みの味を聞いたり、かき氷を配ったりしながら交流をしました。

最初は緊張していた学生たちも、利用者の方にお話を伺ったり、学生生活の様子を聞いていただいたりする中で、リラックスした雰囲気でのコミュニケーションを取ることができました。ボランティアが終了する時には、利用者の方から「また来てね」「これからも頑張ってね」といった励ましのお言葉をいただきました。

参加した学生からは「最初は何を話せばよいか戸惑いや不安があったけど、楽しそうにお話していただき、とても楽しかった」「今後の臨地実習に活かせる経験がたくさん出来た」といった感想がありました。

今後も積極的に白子ホームでの活動を行っていきたいと思います。

### 桜の森白子ホーム「音楽放映ボランティア」

9月18日(水)桜の森白子ホームの入居者の方を対象に「音楽放映ボランティア」を行いました。

ボランティア当日は40名程度の入居者の方と本学の医療福祉学専攻を中心とした1年生24名が参加し、設置したスクリーンに昭和の歌謡曲が流れると、手拍子をしてくださる方や歌ってくださる方もおり、にぎやかな雰囲気の中で音楽を楽しむことができました。

参加いただいた入居者の方からは「昔の歌はいいね」「とっても楽しかった」といった感想をいただき、参加した学生からは「入居者の方とたくさん話ができて、とても嬉しかった」「思っていたよりも上手くコミュニケーションが取れなかったので、次はもっと頑張りたい」といった意見がありました。

今後もこのようなボランティア活動を通じ、入居者の皆さまに楽しんでいただける機会を設けていきたいと思っています。



学友会

## 学友会主催「テーブルマナー講習会」を開催

学友会執行部 副会長・保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻 3年 久保 愛莉

9月29日(日)に学友会主催の「テーブルマナー講習会」を開催し、63名の学生が参加しました。

都ホテル四日市の最上階 ラ・メールを会場に、講師の浅生先生から、洋食を中心としたテーブルマナーを教わりました。

正しい着席姿勢、食器の使う順番や使い方、離席時の立ち振る舞い、さらには和食におけるマナーや焼き魚の食べ方も教えていただき、楽しみながら正しいマナーを身につけることができました。

参加者からは、「とてもためになる講習会で良い機会になった」「美味しい料理とわかりやすい説明でとても良い学びとなった」「自分とは違う学科の方とテーブルを囲みましたが、会話も弾んで楽しかった」などの声があり、非常に好評でした。

テーブルマナー講習会は来年度も開催する予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。



# 学生相談室通信

学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

後期が始まり1か月余りが経ちました。少しずつ涼しくなってきましたが、今年の夏は温暖化の影響なのかいつまでも暑い日が続いたり、天候不順のために各地で災害が起こったりして、大変でしたね。台風の際には、大学の周りでも大雨が降り、近隣で河川が氾濫するなどの被害が出たり、交通が遮断されるなどしました。影響を受けた方もおられたのではないかと思います。また、ご家族やお知り合いが被害に遭われた方もいらっしゃるかもしれませんね。心よりお見舞い申し上げます。

さて、このような時、私たちは直接、影響がない場合でも不安な気持ちになったり、気分が落ち込んだり、イライラしたり、体調不良になったり…心や体に何らかの症状が現れることがあります。遠くの出来事であっても、インターネットやマスメディアを介して、瞬時に情報が伝わります。知らず知らずのうちに、影響を受けてしまうことがあるのです。一見無関係に見える小さなストレスが溜まっていることが背景にある場合に起こりやすくなります。そんな時は無理をせず、「少し心と体を休めてホッとしよう」というサインと考えて、ホッとする時間を作りましょう。リラクゼーション（漸進的筋弛緩法など）をやってみるのも良いですよ。インターネットでも紹介されていますが、学生相談室でも練習できます。気軽にお問い合わせください。



## 「オリーブオイルはポパイの恋人」

レストランで食事をするとパンにバターがついてくるけど、日本のイタリアンをメインにしたところでは、よくパンにオリーブオイルがついてくる。高級なエキストラバージンにつけるとパンが一層おいしく食べられる。

だけど、「本場イタリアで、ホントにパンにオリーブオイルをつけて食べてる人いるの？」とおじさんはちょっと懐疑的。オイルだけに「オー、いる、いる」ってか。ウソ言ってんじゃないよ。「イタリアのお店に行ったりやん！」イタリアのレストランで、パンにオリーブオイルをつけて食べてるのなんか見たこと無いジェリア。

ところで、イタリアでは何にでもオリーブオイルをつけて食べちゃうイメージがあるよね。だから、パンにオリーブオイルをつけて食べるのは、ごくごく当たり前のことと思っちゃう。ピッツァ(ピザ)にだって、タバスコじゃなくてオリーブオイルをかけちゃうしね。唐辛子をオイルで加熱して辛味を出したピカンテオイルってやつ。でも、パンにオリーブオイルをつけるのは……。無いことは無いけど、それはあくまでも家庭での話。レストランでは、何もつけないか、やっぱりバターが定番のようだ。「オリーブオイルをパンにつけるのは、オリーブオイルの味見の時だけだよ」と言う人もいる。

「パンにオリーブオイルをつける」というのは、日本人でいうところの「ご飯にオカカやフリカケをかけて食べる」と同じようなものらしい。おかか飯

やふりかけご飯は家では食べても、料理屋さんでは食べるもんじゃないよね。それと同じで、イタリアでもレストランではパンにオリーブオイルをつけて食べるようなことはしない。

オリーブオイルは、イタリア人にとってはなくてはならないもの。日本人の醤油と同じような感覚で、油というよりも調味料として活躍しているみたいだ。ちょっと小腹が空いた時、オリーブオイルにパンを浸すだけで美味しく食べられる。だけど、これ、現地ではあまりお行儀の良いことじゃないらしい。現地のレストランでやったら「若気のいたりや！」になっちゃうかも。

それじゃあ、「レストランでパンにオリーブオイルをつけて食べる」というのは何処で始まったんだ？以前話題にした、スパゲッティをケチャップで味付けしちゃったのと同様、犯人はアメリカじゃないかとおじさんは思ってる。アメリカは何でもやっちゃうからね。アメリカのイタリアンレストランで流行ったものを、健康志向の日本のレストランが真似しちゃったんじゃないのかな。

おじさんがヨーロッパへ行った時のこと、レストランで「オリーブオイル、オリーブオイル」と、恋人を呼ぶポパイのように騒ぎ立てている日本人を見かけたことがある。「パンにはオリーブオイル」が世界標準だと勘違いしてイタリアン？(ポパイのギャグは若い人には理解不能だと思います・・・m(\_\_)m)

# 学生参画型「教育改革委員会及びFD推進委員会」を開催

学長 豊田 長康・FD推進委員長・薬学部薬学科 教授 田口 博明

8月1日(木)2018年度から開催している学生参画型の「教育改革委員会及びFD推進委員会」を開催しました。学長をはじめ教育改善に関わる教職員で構成される両委員会に、教育改善委員として任命された学生13名が参画し、以下の議題について活発な意見が挙がり、具体的な教育改善に関する方策等について議論ができました。

1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結びつけるかについて
3. 遠隔授業(Zoom)およびe-learning(learningBOXなど)について
4. 教育に関する改善点について

学生教育改善委員からの意見に対し、授業改善に組織的に取り組む必要性、learningBOX、Zoomによる学修支援の活用方法、授業評価の実施方法など、多岐にわたって意見交換し、重要な気づきにつながる委員会となりました。

今回の意見を参考に、カリキュラムの内容・学修方法・学修支援、そして学修成果に関する改善を検討することとし、今後も学生が主体的に改革・改善にかかわる仕組みを取り入れていきたいと思っています。今回参画してくれた学生教育改善委員の皆さんにとっても、この機会を今後に生かしてほしいと思います。



## 行事予定

2024年11月～2025年1月

11月2日(土) 補講日  
8日(金) 大学祭準備(休講)  
9日(土)～10日(日) 大学祭  
11日(月) 大学祭片付け(休講)  
13日(水) 補講日  
14日(木) 学校推薦型選抜(推薦)  
総合型選抜(3期)  
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講  
15日(金) 学校推薦型選抜(推薦)  
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講  
30日(土) 秋期追・再試験  
12月7日(土) 補講日  
14日(土) 学校推薦型選抜(指定校のみ)  
総合型選抜(4期)  
編入学試験第2回  
17日(火) 補講日  
24日(火) 冬季休業(～1月5日)

27日(金)～1月5日(日)  
冬季一斉休暇  
1月6日(月)・7日(火) 補講日  
8日(水)～10日(金) 後期定期試験  
14日(火) 補講日  
15日(水)～16日(木) 後期定期試験  
17日(金) 大学入学共通テスト準備  
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講  
18日(土)～19日(日) 大学入学共通テスト  
千代崎のみ立入禁止  
20日(月)～21日(火) 後期定期試験  
22日(水)～24日(金)・27日(月)～28日(火)  
後期・冬期定期試験と解説  
29日(水) 一般選抜A日程準備  
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講  
30日(木) 一般選抜A日程  
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。